【樹木の部屋】

ジンチョウゲ（ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属　Daphne odora ）

和名:ジンチョウゲ(沈丁花)　別名:リンチョウゲ(輪丁花)　英名:Winter Daphne

フトモモ目　常緑低木　　原産地：中国

花言葉：栄光、勝利　　花色：白、薄紅色

← 写真-１　ジンチョウゲ
撮影日：2021 年 2 月 23 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

←↑ 写真-２、３　ジンチョウゲの花
撮影日：2021 年 2 月 23 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

室町時代頃にはすでに日本で栽培されていたとされ、雌雄異株です。日本で流通しているジンチョウゲの多くは雄株なので、実を見る機会はめったにありませんが、赤い可愛らしい実を付けます。

ジンチョウゲ(沈丁花)という名前は、香木の沈香(ジンコウ)のような良い匂いがあり、丁子(ちょうじ、クローブ)のような花をつける木、という意味でつけられたという説と単に沈香が転訛したとする説があるそうです。

早春に花を咲かせることから、春の季語としてよく詠われ、上品な甘い香りを放って春の訪れを告げ、クチナシ、キンモクセイと共に「三大香木」あるいは「三大芳香花」とされ、庭木や公園樹及び鉢植えとして親しまれています。

蕾は濃紅色ですが、開いた花は淡紅色で雄蕊は黄色、強い芳香を放ちます。枝の先に 20 ほどの小さな花が手毬状に固まってつき、花を囲むように葉が放射状につきます。花弁のように見える部分は萼が花弁状に変化したものです。

ジンチョウゲの樹高は 1m～1.5m ほどで、枝が良く分岐するので特に剪定をしなくても自然にこんもりとした樹形を保ちますが、枝が込み合うと蒸れて病気が発生しやすくなるので、花後すぐに込み合った部分の枝を間引き剪定します。太い枝を切ると枯れ込むことがあるので強剪定は避け、どうしても切らなければならない時は切った後に癒合剤を塗って保護します。また、6 月～7 月にかけて次の年の花芽が作られるので、夏以降に剪定を行うと花が咲かなくなってしまうので注意が必要です。挿し木で増やせるので間引いた枝は挿し穂に利用できます。

ジンチョウゲは赤い実や根、樹液に至るまで毒性があります。その毒により身体的な害はジンチョウゲの部位によって違いがでるそうです。樹皮や樹液に触れると、皮膚にかゆみや水ぶくれができてしまう可能性があり、実は誤って食べてしまうと下痢や嘔吐、最悪の場合は心臓障害を起こす可能性があるほどだそうで、要注意です。

手入れをするときは手袋が必須となり、また子供やペットが間違えてジンチョウゲに触れたり、樹皮や樹液、花などを体内に入れないようにする配慮が必要です。

＜ちょっと一言＞

＊ジンチョウゲの種類

・フクリンチンチョウゲ(覆輪沈丁花：Daphne odora f.marginata)
　葉の縁取りが斑入りの沈丁花。
・シロバナジンチョウゲ(白花沈丁花：Daphne odora f.alba)
　萼の外側が白くなっている沈丁花。
・ウスイロジンチョウゲ(薄色沈丁花：Daphne odora f.rosacea)
　萼の外側が淡紅色になっている沈丁花。

など。